

課題名

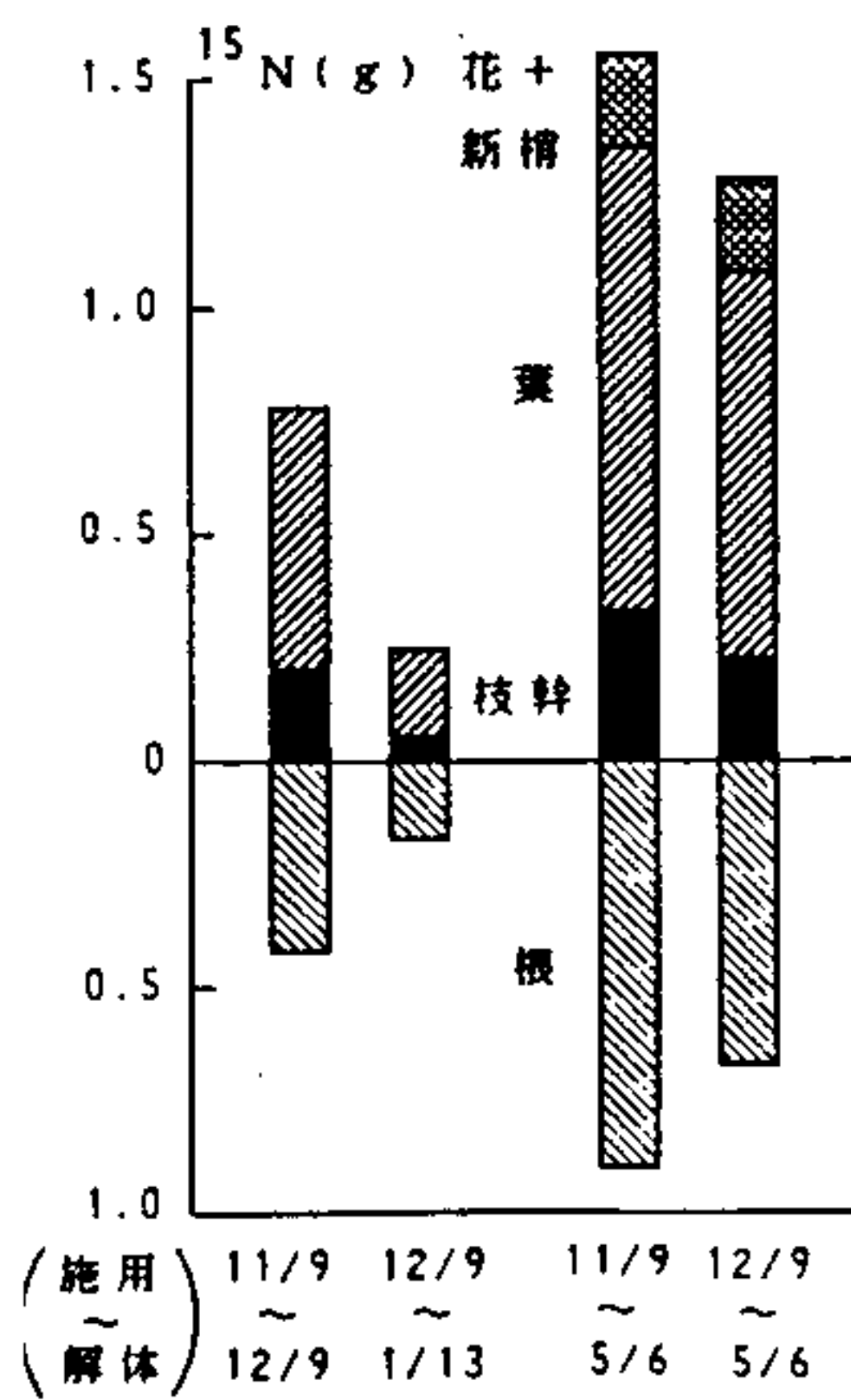
28. 秋肥の施用時期と窒素吸収

成果の要約

1. 施肥窒素の1か月後の吸収利用率は、11月上旬施用区が11.2%であるのに対して12月上旬施用区では4.2%と大幅に低下していた。1樹当たりの施肥窒素吸収量も前者の1.18gに対して後者は0.44gであった。
2. 翌年5月上旬における施肥窒素の吸収量及び吸収利用率については、両者の差が大幅に縮小していた。
3. 低温期間中の葉中窒素含量は、11月上旬施用区で明らかに高い傾向がみられたが、地温の上昇した3月以降では両者に顕著な差がみられなかった。
4. 以上の結果から、秋肥の施用時期が遅れると施肥窒素の吸収利用率は大幅に低下して、翌年の春に吸収される割合が増加すると考えられた。

成績概要

秋肥の施用時期が窒素吸収に及ぼす影響



項目\区	A	B	C	D
施用時期 (月/日)	11/9	11/9	12/9	12/9
解体時期 (月/日)	12/9	5/6	1/13	5/6
乾物重 (g)	3571	3449	2974	3470
全窒素濃度 (%)	1.26	1.47	1.26	1.54
全窒素含量 (g)	44.9	50.6	37.6	53.4
重窒素濃度 (mg%)	39.3	81.4	14.6	63.5
重窒素含量 (g)	1.40	2.81	0.44	1.99
	(1.18)	(2.44)	(0.44)	(1.99)
寄与率 (%)	3.13	5.56	1.16	4.19
吸収利用率 (%)	11.2	23.3	4.2	19.0

秋肥の施用時期と重窒素の吸収量

注) ()内は乾物重を3000g/樹とした時の換算値。

(果樹試験場)

普及上の留意点